

## 令和2年度 新潟市大規模建設事業評価監視委員会

■日時：令和2年12月23日（水）午後1時15分から

■場所：新潟市役所 本館6階 第3委員会室

■出席者

○委員：小田委員、菊野委員、紅露委員、椎谷委員、鷲見委員

○新潟市：都市交通政策課、住環境政策課、道路計画課、公園水辺課、行政経営課

■議事内容

### 1 開会

### 2 行政経営課長補佐あいさつ

－行政経営課長補佐あいさつ、事務局より配布資料説明・各委員の紹介－

### 3 会長選任・あいさつ

－各委員の互選により紅露委員が会長に選任、紅露会長あいさつ－

### 4 議事

（紅露会長）

それでは、ここから議事に入らせていただきます。

初めに、今年度の評価の概要について、事務局よりご説明をお願いいたします。

－事務局より大規模建設事業評価制度について説明－

（紅露会長）

議事の進め方ですが、事業所管課からご説明いただいた後、委員の皆様よりご質問、ご意見をご発言いただき、意見整理したうえで評価及び付帯意見をまとめたと考えております。

なお、次第及び事業一覧に記載されております（1）を除いた事後評価と事前評価は関連のある事業ですので、一括してご説明いただき、それぞれについてご意見をいただきたいと思っています。

それでは、（1）県都新潟の拠点化と安心して暮らせる持続可能な交通とまちづくりにつきまして、担当課よりご説明をお願いいたします。

## (1) 県都新潟の拠点化と安心して暮らせる持続可能な交通とまちづくり【事前評価】

### —都市交通政策課より説明—

#### (紅露会長)

今のご説明につきまして、ご質問、ご意見をいただきたいと思っているのですが、事前評価ですので、事業の必要性や効果等の視点から、事業実施の妥当性について、この辺りを中心に、目標の妥当性ですとか、当計画の効果・効率性、計画の実現可能性を十分にご考慮いただいて、ご発言、ご意見、ご質問をいただければと思っております。よろしく願います。

#### (小田委員)

全体を通じて、この投資については必要な投資なのかなという感じはしているところですが、細かいところをいくつか確認させていただきたいと思います。国土交通省提出用の総合計画案という案があって、その中で、それぞれの事業ごとの投資予定額が記載されているのですが、この基幹事業における事業費の合計額と、B/C費用を算出するときの事業費の合計額との差異というのはどのような差異なのか、そのところが1点。

それから、評価指標の中で、現状維持で11.5パーセントの満足度をキープしていくということについて、減便等のマイナス要因も働いている中でそれを維持していく大変さというのは、何らかの形でもう少しよく説明しておいたほうがよかったのかなということを感じました。

併せて、これまでの参考実績を見ますと、平成30年度と令和1年度とで、満足度でこぼができていっている中で平均というように出しているけれども、この大きなこぼがでている要因というものは何かということはあるのかどうかということをお教えいただければと思います。

#### (鷺見委員)

事業費の差異については、評価時点がいつか分からないのですが、B/C費用を算出するときの事業費を現在価値化しているからだと思います。

#### (都市交通政策課)

新駅につきまして、今、鷺見委員からありましたとおり、B/C費用を算出するときの事業費を現在価値化しているということで差異が生じているということです。

それから、満足度の平成30年度と令和元年度の差ということですが、令和元年度は4年間のバス交通の取組みについて、改善に向けた総括をさせていただいたということがありました。そういった動きの印象というものが影響しているのではないかと捉えております。

(小田委員)

その前までの年が11.3パーセント、11.9パーセントという形でいっているの、そこを見ても11.5パーセントという平均で妥当なのかというところを見ていくということでしょうか。そのようなことで納得いたします。

(鷺見委員)

新駅の評価時点をいつに設定しているのか。

(都市交通政策課)

建設が終わる予定としている令和5年度です。

(鷺見委員)

多分、来年からやる部分が小さく評価されるから額が小さくなるのだと思いますけれども、そういうことなのですね。

(都市交通政策課)

そうです。

(鷺見委員)

この成果目標というのは、上位計画というものとどのような整合性が働いているのか、何か上位計画があって、それを達成するための成果目標であるべきだと思うのですが、その上位計画が何で、それがどのような目的、目標になっていて、今回の事業がどのように貢献していくのかという整理はされているのかどうかというところは確認させていただきたいです。それ次第では、こういう成果指標の置き方でいいのかというところをここで議論しなければいけないと思うので、お願いします。

(都市交通政策課)

にいがた未来ビジョンというものが、新潟市の最上位計画ということになるかと思えます。その中では、新潟市の拠点化、拠点性の向上といったものを打ち出しております。

そこで、今回、都心、あるいは基幹公共交通軸内というところでの拠点性の向上を図ることで、地域全体の拠点性の向上にも寄与していくというようなことを考えております。その中で新駅の設置というものが、まさに公共交通からまちづくりの、あるいは拠点性の向上といったものに寄与する。また、バス交通の利便性を維持、向上することによりまして、同じくまちづくり、公共交通の面から拠点性の向上に寄与するものと考えております。

(鷺見委員)

その言葉としては分かるのですが、この目標を設定することの合理性というものはどこで判断したらいいのか分からないわけです。この事業でどのようにその目標を達成しようとしているのかという関連性をしっかりつけていただく必要があるのではないかと思います。

す。つまり、成果指標が最終的な目標とどのように関係しているのかということをお聞きしたいということです。

**(都市交通政策課)**

昨年度、にいがた未来ビジョンに基づく、その下位に位置する計画として新潟都市交通戦略プランという交通のプランを策定いたしました。その中で新たな交通の将来像としまして、県都新潟の拠点化と安心して暮らせるまちというものを掲げております。その中の目標としまして、二つあります。一つ目が、県都新潟の拠点化を支える交通、もう一つが、安心して暮らせることで選ばれるまちを支える交通ということです。新駅につきましても、バス交通の改善につきましても、いわゆる交通というものを通じて、先ほど申し上げました拠点化及びバス、あるいは公共交通が維持される、充実していることによって、市民の皆様、あるいは来訪者の皆様も安心して暮らせる、あるいは訪れることができるというようなまちづくりを進めていく。そういったところにつながっていく指標であると考えております。

**(鷲見委員)**

その新潟都市交通戦略プランの中で中間目標があるのであればそこに関連づけられているほうがいいわけで、そういう具体的な説明をいただきたかったというか。もしないのならばそれは仕方のないことかと思えますけれども、いきなり一つ一つの事業が総合計画の目標につながっていくわけではないので、やはり中間目標みたいなものがあって、それを一つずつクリアしていくことによって最終目標につながっていくのだと思うので、そういう整理がされているのかどうなのかというところですが、すけれども。

**(都市交通政策課)**

この都市交通戦略プランに基づくさまざまな指標というところにおきまして、例えば、都心地区へのアクセス時間の短縮など、あるいは都心地区へのアクセス時間の短縮と現状維持といったような指標がありまして、駅ができること、あるいはバスがきちんと維持されることによりまして、都心へのアクセスの向上というものに寄与するということがあると思っています。

**(椎谷委員)**

公共交通の満足度に関してなのですけれども、11.5 パーセントということだったのですけれども、この不満足とかというところでどのような意見があったのかなということをお伺いしたいと思います。

私もバスを利用しておりますけれども、やはり高齢者の方がすごく増えてきているのです。今回提示されているバス停の上屋の整備ですとかバリアレス縁石の導入というのは、これはすごくありがたいことでありまして、目に見える変化というものがやはり市民にとってはと

でも大事だと思っております。これから冬がやってきますので、こういった整備はとてめ  
りがたいと思っております。

満足度を上げていくという目標を掲げている以上、何が不満足で納得できていないのかと  
いうところも、ぜひ教えていただきたいと思っております。

**(都市交通政策課)**

去年、先ほどのご説明の中で申し上げましたBRT新バスシステムの総括ということの中  
で、利用者へのアンケートというものを行いました。その中で不満というところで最も多か  
ったのは、やはり乗り換えといったところでした。これが、路線網の維持は必要なのだけ  
ども、乗り換への協力は難しいというような回答が42パーセントありました。これが最も多  
かったということです。これは、特に高齢者とか、あとは通院目的の方々にとって、乗り換  
への負担が大きいというような結果が示されたところです。また、バス待ち環境、乗り換  
える待ち時間、乗り換への移動距離についても、満足度が低いといったような結果が出てお  
ります。

**(椎谷委員)**

改善できることとできないことというのはやはりあるかと思えますけれども、本当に高齢  
者にとってみるとそこが本当に、見ていても大変だろうなという場面がけっこうありますの  
で、ぜひ、いい方向に行っていただければと思います。

**(紅露会長)**

鷲見先生のご質問とご意見に少し近いのですけれども、成果指標のどういうことが達成で  
きたことで目標達成しているのかというのは、やはり非常に重要なポイントであり、でき  
るだけの確にそれを評価できるものに設定できればいいなと。また、こういったデータを集め  
るために膨大なコストが生じるというのは非常にナンセンスな話になりますので、簡単にデ  
ータが取れて、かつ達成度がうまく評価できるようなものを選定していかざるをえないだろ  
うという気がしております。

そう考えたときに、我が国特有なのかなと思うのは、公共サービスを担っている事業者が  
公共部門ではないという根本的な問題がありまして、いいところと悪いところとあると思  
うのですけれども、持続可能性ということを考えていったときに、本当に公共交通の満足度の  
指標だけでうまくそれが抽出できるのかどうか。そういった考え方からすれば、お客さん  
とか市民が満足していれば当然使ってくれるだろうということで評価はできるのかもしれ  
ないのですけれども、やはり公共交通を担う立場の側からしたときの持続可能性という観点  
も、市全体としては十分に配慮しなければならないことでもあるのかなという気もしてお  
ります。本来の狙いとして、車を使わない人も公共交通機関を使っていろいろなところに行け

る、サービスを受けられるということが大きな目的なのだろうと思いますので、そうしたときに、例えば駅などでも、駅の利用者数だけをインデックスとして採用することが本当にいいのか。すごく厳しい意見を言えば、本来ならば、本当にここを使った人たちが車からシフトしてきたのかどうなのかという議論は、突き詰めれば出てくるとは思うのですけれども、ただそれを確認するためにすごいお金や手間をかけてアンケートするとか、データを取るなどということは、また現実問題として難しいところはあるのかなという気もします。とりあえず今回は、目標値があって、この目標を達成できたかどうかというのは、ある意味バロメーターとしてはあるのかなとは思うのですけれども、事後評価の中で、例えば、周りの駅からのお客さんの移動とかなると、基本的にはシフトしていないということになってしまうので、その辺、この目標設定の妥当性とか、投資効果が本当に狙うところにうまく効いたのかどうかということ、ぜひご検討いただければいいかなと思っています。

それから、バス交通については、やはり鉄道事業者よりも経営環境が非常に厳しい中で、事業者そのものの事業存続が危ぶまれているということが、我が国の、特にバス事業の現実だと思うのです。そういう中で、確かに住民の要望、満足度はこうなのかなというのはあるのですけれども、やはり担う側、使う側、皆さんが将来に向けてどうあるべきなのかということ、市が行政としてどうサポートすれば担う側も使う側も持続可能なシステムになるのかということをご検討いただく必要はあるのかなという気がしています。

高度な技術を使って、非常に便利なことで、昔できなかったことがたくさんできますので。ただ、そういうことから距離が遠い人がメインのお客さんということになると、なかなか難しいところがあるのは十分理解できますので、だから何をするのかとか、どういう手を打つのかというのは、やはり今後考えていく必要があるのかなという気がしています。個人的には、やはり先を見て先手先手でやっていかないと、担う側がなくなってしまうと成り立たなくなってしまうので、全体を見通すような立場で今後の政策をブラッシュアップしていただき、事後評価で効果の評価などをぜひ検証していただければと思っています。

ということで、5分オーバーしていますけれども、最初の議題はこの辺にしまして、次に、(2)です。新潟市地域と住まいの整備計画（新潟地域住宅計画第3期）の事後評価、それから(3)（仮称）新潟市地域と住まいの整備計画（新潟地域住宅計画第4期）の事前評価については関連がある事業のため、担当課より一括しての説明をよろしく願いいたします。

(2) 新潟市地域と住まいの整備計画（新潟地域住宅計画第3期）【事後評価】

(3) (仮称) 新潟市地域と住まいの整備計画（新潟地域住宅計画第4期）【事前評価】

－住環境政策課より説明－

(紅露会長)

はじめに、2番目の新潟市地域と住まいの整備計画（新潟地域住宅計画第3期）の事後評価につきまして、事業の進捗状況や効果、今後の同事業の進め方、その他について、ご質問、ご意見がありましたら、ご発言をよろしくお願ひいたします。

(鷲見委員)

今、事後評価を説明していただいているのは、最初の二つなどは特に、事業を実施すれば必ず結果がついてくるものが成果指標になっている。これは、成果指標という意味でいいのですよね。やはりそこからどういう便益が発生しているかというようなところがその指標として設定されるほうがいいのではないかと思いますので、第4期ではそういうところで言うと、29枚目の①などは、計画どおり予算がついて執行されれば達成されるものなので、そこは行政としては確実に実行していくということであって、そこから先に何が生まれているかということが重要ではないかと思うのですけれども、そういうところが4期に活かされていくといいのではないかとことが意見です。

それから、第3期を評価する際に、事業費、つまりコストとベネフィットの関係というのはやはり見る必要があって、どれだけのお金をかけてこういう成果を生み出しているかというようなところの指標の作り方ということも考えていただいているのではないかとはいっています。やはりご承知のとおり市の財政もなかなか大変なところもありますから、そういう意味では、きちんと効率的に改善につながっているかというところは評価する指標としてあってもいいのかなと思っています。

それから、最後ですけれども、例えば20枚目のスライドのところなどで、こういうアンケートの目標設定をされるわけですが、73パーセントから76パーセントというのは、もしかしたら誤差かもしれないというか、サンプルサイズに非常に影響を受けると思うのです。ですので、そういうサンプルサイズがどのくらいかということとかが大事だと思いますし、サンプルサイズ次第では、多分3ポイントくらいは簡単に動くというか、そういうものである可能性もあるので、そういう疑義が出ないようにもう少し合理的な設定の仕方とか、なぜ76パーセントにしているのかということの説明みたいなこともされたほうがいいのではないかと思います。今日伺った限りでは、73パーセントから76パーセントにするということの意味合いがまったく分からないというか。ですので、これも、やはりこれの上位計画との関

係性というところでこういう設定をされているのかもしれないのですけれども、設定の仕方の合理性ということも少しご説明いただけるとよかったかなと思っています。

すみません。少しいろいろとまとまっていなくて申し訳ないのですけれども、次に生かしていただきたいということです。

**(小田委員)**

非常に単純なことを聞いて申し訳ないのですけれども、なぜ水で、次が電気というように変わっていくのかということが、まとめてやってしまえばいいじゃないかというか、当然予算の問題などもあるからなのでしょうけれども、そう感じたのが一つありました。

それから、今ほど鷺見先生からもお話があったように、やれば必ず 100 パーセント目標達成できるということが成果目標で本当によかったのかなと。最初にこれを見たときに、やはりそう感じたところがあって、100 パーセントになってよかったということではないのだろうなと感じたところがありますので、やはり何か工夫をされたほうがいいのではないかと気がいたしました。

もう一つ。これは感想としてなのですけれども、この新たなマンションを造るにあたって、これだけの投資を市としてやっていくということになりますと、やはりそれに対する相当なメリットが市に期待されているということだと思えるのですけれども、その辺についてはどのように考えていらっしゃるのか。これだけ大きな投資額ということになりますと、やはり通すのも相当大変だったのだらうと思いますけれども、その辺、何かあれば教えていただきたいと思えます。

**(住環境政策課)**

まず、市営住宅の給水の改修から電気に移った経緯ですが、現行計画についての給水設備改修というのが、改定前の市営住宅長寿命化計画の中で改修が必要と判断してきた分野で、新規計画での長寿命化計画というのが令和元年度末に改定した長寿命化計画をもとに策定しているのですけれども、その新しい長寿命化計画の中で改修部位を見直しまして、そこで電気設備の改修、電気の容量を上げることが必要という判断の中で、このような形で改修計画を立てているということになっております。

もう 1 点、お話のありました 100 パーセント目標が達成できるのではないかという点については、市営住宅の改修を指標に挙げるところは難しい中で、一応件数ではなく、長寿命化計画の達成率とすることで、全体の計画がどれだけ進んでいるかという指標を設定しています。

**(まちづくり推進課)**

先ほどマンションに関するご質問があった点につきまして、優良建築物等整備事業を所管



しておりますまちづくり推進課より回答させていただきます。

今ほどご意見がありましたとおり、マンションに関しては非常に補助額が大きい事業でして、出した補助額に対して固定資産税という形で何年で回収できるかというところの計算をして、投資した分しっかり回収できるというところの確認をしておりますのと、国土交通省に補助金を要望するときにあたってB/Cを出しております。1を超えているというところも確認しておりますので、住民の方が増えて、地域でいろいろと消費を行うということに関して、まちなかの活性化につながっているところも確認しておりますので、効果があるということで見込んでおります。

(小田委員)

せっかくそういう裏の情報をもっていらっしゃるのであれば、しっかりと反映されたほうがよろしいのかなとは思います。

(住環境政策課)

分かりました。

(紅露会長)

事業費が大きくて、受益を受ける人たちの生活のこととか、生存のことと直結する事業だと思うのです。その半面で、公共事業としてどこまでやるのか、どのクオリティのものをどこまでやるのかという議論も、やはりついてまわる事業なのかなと、個人的にはそのように思っております。ですので、やはり私個人としては、そういった短期的なことだけではなくて、社会に与える影響とか、社会の中で公営住宅、市営住宅が存在することの意味というものも、やはりよくお考えいただいたうえで、事業の目的と評価項目をどう設定するかというのは、次にぜひ反映していただければと思います。

なぜこのようなことを言うかということ、やはり大事なことだと思うのです。生活するという、人が生きるために本当に大切なことなので、だからやはりお金が大きい、小さいものなんですけれども、そこで暮らす人たちの生活に直結しますので、ぜひその投資が効果的に市民の生活の向上につながるようにご配慮いただければと思っています。

少し時間が押しているのですけれども、事前評価も併せてご意見をいただきたいと思えます。後半になりますけれども、今度、これから先5年間の住宅計画、事業推進に関しての事前評価ということで、指標設定がいくつかありまして、あまり時間がないのですけれども、こちらにご意見とかご質問があればいくつか受けたいと思えますが、いかがでしょうか。

先ほどの鷺見先生のご発言に集約されるのかなという気もするのですけれども、設定したターゲットというのは、その評価指標できちんとその達成をチェックできるのかどうか、そういったところでやれば達成できる数字になっていないかどうかというところは、やれるかど

うかというのも大事なポイントなので、これから先は、だからそれも一つありかなとは思っているのですが、やはり皆さんが事業の中で意図するところにそれがどう反映されているのかというのを、ぜひご配慮、ご考慮いただいて、今後、事業の推進を図っていただければと思っておりますけれども、皆様、何かご発言はありますか。

もう大体重複するかなと思いますので、このようなところかなとは思いますが、重ねて申し上げますけれども、やはり大切なことなので、ぜひお考えいただければと思います。続きまして、次に移りますが、今度は（４）防災・震災対策による災害に強いまちづくり（第２期）、これは事後評価になります。それから（５）（仮称）防災・震災対策による災害に強いまちづくり（第３期）、こちらは事前評価になりますけれども、関連事業ということで、担当課より一括しての説明をお願いいたします。

（４）防災・震災対策による災害に強いまちづくり（第２期）【事後評価】

（５）（仮称）防災・震災対策による災害に強いまちづくり（第３期）【事前評価】

—住環境政策課より説明—

（紅露会長）

それでは、評価に移りたいと思います。まず、事後評価なのですが、（４）です。防災・震災対策による災害に強い住まいづくり（第２期）事後評価について、ご質問やご意見、あるいはご発言をよろしくお願ひしたいと思います。

（小田委員）

次の計画にも関係してくるのですが、長寿命化計画に基づく屋上の防水とか外壁改修の進捗率ということで目標値が設定されているわけなのですが、最終的には 100 パーセントまでもっていくという前提で考えていらっしゃるのかというところが 1 点です。

次に、仮に 100 パーセントまでもっていこうとしたときに、この目標となるものを選択していくといえますか、要はどのような優先基準でこれらのものを選んできたのか。結局、こういう防災に関するものというのは、市営住宅、やはりすべて補修するべきものというのがあるとは思っているのですが、そうなった場合に、まず目標値として 100 パーセント、そして途中で何パーセントという、その中間値までもっていくときの優先順位をどのように考えていらっしゃるのか、そこを教えてくださいたいと思います。

これは、今回の実績もそうですし、次の目標設定の中でも、何件やって何パーセントになりますというようなご説明がありましたけれども、最終的に 100 パーセントにもっていくと

したら、その優先順位のつけ方等についてご説明いただければと思います。

**(住環境政策課)**

まず、最終的な目標として 100 パーセントにもっていくかというところなのですが、目標としては、長寿命化計画の 10 年間で 100 パーセントという目標を設定しております。ただ、長寿命化計画自体が 5 年ごとに改定するような形になっておりまして、その中で目標棟数というものが変わってくるため、目標としては、現段階で 100 パーセントを目指しますが、計画を再度改定する段階で分母が変わる可能性があります。

次に、優先順位についてですが、基本的には老朽化が早い部位や緊急性の高いものを優先的に修繕する計画を立てておりますが、それも状況とともに老朽化の具合、不具合の部位が変わってくるので、優先順位についても逐一評価して変えていくような形になっております。

**(小田委員)**

分かりました。結局、安全を担保するためには、危ないところをとにかく潰していかなければだめだということで、やはり絶えず危険度を把握しながら優先順位について見直して、限られている予算の中でやっていくということが大事だと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

**(紅露会長)**

今の小田委員のご発言は、別のところにも。まったく別の話なのですが、要するに危険な箇所に対応しなければいけないということで、やはりここに出ている予算と事業の進捗のスピードと、そういったところの中で、どうやって危険箇所を減らしながら、しかしリスクには晒されていて、皆さんがどのようにお考えになって、どのようにこの事業を進めていくのかというところはこの手の話にはつきものの話で、その辺も含めてご考慮いただきまして、今後、次の事前評価につながってくると思いますので、ぜひご検討をお願いしたいと思っています。

併せて 5 番目ですが、事前評価です。今度は、設定指標等に対するご意見等をいただいてということになりますが、その辺りはいかがでしょうか。

計画の指標ということで、外壁改修の達成率、ガス設備改修の達成率、特定天井の安全対策、100 パーセントということで、あとは木造耐震改修、木造住宅の耐震改修と補助事業における耐震化工事実施数ということで、従前よりも加速しているところなのではないでしょうか。この目標を設定して、今後、狙いを進めていけるかどうかということになりますが。

**(鷲見委員)**

先ほどと同じことになるのですが、ここで挙げていただいているのは、やはり予算化されれば当然やっていかなければいけない話ということになるので、やはり防災とか安全

とかと言っているのであれば、例えばここ何年かでどういう事故みたいなものがあって、どういう問題が生じて、それがどのくらい減っていくかとか、そういう指標のとり方はできないのかと。そういうものを少し含めるというのが、この安全性が高まったとか、防災が機能したというところの評価としていいような気がするのです。何かそういうものは置けたりするのでしょうか。これ自体は、内部でしっかり持っていて、きちんとやるというものだと思うのです。しかし、成果目標としてあがってくるものではないような気がするのです。全部ではないとしても、そこから安全性が改善されたかというような指標も入れていただくといいいのかと思うのですが、何かできますか。

**(住環境政策課)**

基本的には不具合が完全に悪化してから行う事後対応ではなく、老朽化して不具合が起こる、影響が起こりそうだとところを改修していく事前対応になるため、表面化していた不具合が事業を行うことで変わったという指標の設定が困難な中で、このような指標を設定しております。

**(鷺見委員)**

特段、この市営住宅の運営において、何か市営住宅の中で、例えば、子どもがケガをするとか、何かそういう事故的なものというようなこととか、そういう設備の問題でどなたかがケガをされるとか、そういうことはまったく発生していないということなののでしょうか。そういうことに対しても、当然こういうことは寄与していくのかなと思ったりもするのですが、少し違うのでしょうか。ガス施設設備とかは違うのでしょうか。

**(住環境政策課)**

基本的には、外壁とか屋上防水に関しては、建物躯体に影響してくる部分なので、躯体が原因で、入居されている方が何かしらの健康的被害等を被ったという話は確認できていません。

**(紅露会長)**

やはり、できていないものをできるようにしなければならないという段階の議論なのか、それとも、その中でより一層加速してやらなければいけないものが果たしてあるのか、ないのか。あったときに、ではどのようにそれを抽出して、どのように達成目標とか達成指標として眺めていくのかというようなところの理屈づけというのでしょうか。そういったところは、ぜひ前向きにご検討いただく必要はあるのかなという気がしています。ゼロが37とか9が70というのは、もう明らかに古くなって直さなければいけないというのは我々も見ていて分かるのですが、例えば、④の指標なども、実施数が増えるということは、果たしてどういう意味があるのか。それは、年数が経てば古い家は増えていきますけれども、それを

市がこれだけの件数を増やしてやるということに対してどのようにお考えで、これを増やすということがどういう意味があるのかという、多分その理屈づけといいますか、市民の皆さんに対する説明ということになるのだと思うのですけれども、やはりその辺が委員の皆さんからのご質問とかご意見の中で共通するのかなと思いますので、ご検討いただければと思います。何かありますでしょうか。

**(椎谷委員)**

一つお伺いしたいことがありますして、公共施設における特定天井の件なのですけれども、対象 27 ということなのですけれども、これは 8 区すべてで 27 になっているということではなかったでしょうか。この 27 施設というのは十分なのか、または本来はもっと増やさなければいけない、危険な箇所はあるけれども予算上それができないのかということをお伺いしたいなど。とても大事なことだと思っていて、この 27、そしてまた災害本部も含まれているということですので、その辺は十分なのか、お伺いしたいと思います。

**(公共建築第一課)**

公共建築第一課の川原と申します。

27 施設については、全市を対象とした施設になります。いわゆる特定天井と言って、ある一定規模の大きさとか高さとか、平方メートル当たりの重量がある天井をもつ施設を対象としています。27 施設というのが今、把握している対策を講じなければならない施設となります。

**(紅露会長)**

議論が集束した感じなのですけれども、よろしいでしょうか。

ということで、似たテーマがずっと続いてきたので、議論が出尽くしてきたかなというところでは。少し予定よりも早いのですけれども、この辺りで今の案件につきましては、委員の皆様のご意見を改めてご検討いただいて、事業そのものに疑問を抱いているとか、そういうご意見が少なくともありませんので、やはりその辺のところをご理解いただいて、せっかくやるからには狙ったところにきちんと近づいているかというところを、ぜひ含んでいってほしいと思いますので、ご検討のほどよろしくお願ひしたいと思います。

予定よりも 5 分ほど早いのですけれども、この辺りで一旦休憩とさせていただきます。3 時 20 分に再開させていただきます。

**(休 憩)**

(紅露会長)

それでは、3時20分になりましたので、再開させていただきます。

次第の6番目になります。地域をおこす・つながる道づくりの事後評価、それから7番目、(仮称)安心・安全を守り快適な暮らしを支えるみちづくりの事前評価につきまして、関連事業ですので、担当課より一括してご説明をよろしく願いいたします。

(6) 地域をおこす・つながる道づくり【事後評価】

(7) (仮称) 安心・安全を守り快適な暮らしを支えるみちづくり【事前評価】

—道路計画課より説明—

(紅露会長)

(6) 地域をおこす・つながる道づくりの事後評価ということで、事業の進捗状況、効果、今後の同種事業の進め方、その他について、ご質問、ご意見がありましたら、ご発言をよろしく願いいたします。

私から一つ教えていただきたいのですけれども、事後評価で、評価指標がこうなりましたというのを伺ったのですけれども、実際に計画を立てる段階と、各年度で事業を進める段階になったときに、予算規模によっては優先順位をつけてやらなければいけないということが出てくると思うのですけれども、その対象事業を選定するに当たって、こういった資料というものを考慮して、どこをやるかというのは決められているものなのかどうなのか、少し気になってご質問させていただきました。

これだけでできてこれだけできなかった、そしてトータルはこれだけのことができましたというのは、数字としては分かるのですけれども、やはり意思決定のプロセスの中でこういった目標と評価指標を設定されるのであれば、これに基づいて決定がなされているのか、検討はしたけれども、必ずしもそのようになっていないのか、なかなかお答えしづらいかなという気もするのですけれども、その辺のところを差し障りのない範囲でけっこうですので、教えていただければと思います。

(道路計画課)

お答えします。基本的には、今回の整備計画に基づいて事業箇所は選んでいます。例えば、国の交付金を要望しても満額つかなかったり、予算はついたものの用地買収交渉などにより長期化してしまった、地元と話をしたら思わぬ調整事項が出てきて時間がかかったなど、結果的に目標に至らなかったという形になっています。

(紅露会長)

そうすると、プランとしては、この評価指標の達成度ができるだけ上がるようにということで議論はなされているのだけれども、現地条件によってすぐにできるかできないかということで、結果としてやれた箇所、やれていない箇所というものが出てくるという理解でよろしいでしょうか。

(道路計画課)

基本的にはそのとおりです。

(鷲見委員)

成果指標のところ、例えば5ページ、これは、シグマというのは、全部の道路を足しているのですか。だから、事業実施ができないと目標達成できなかったという話になってしまうので、そうすると予算など、いろいろなものに左右されてしまうので、もう少し工夫が必要なのかなと。つまり、単体の線ごとに見るとどうだったのかとか、今できたところまででどうだったのかとかというような、何かもう少し工夫も必要なのかなという気はします。これで16分だったのだけれども、実際は11分しかできなかったというのですけれども、でもこれは、完了したところは目標を達成していたのか、していなかったのかというところが分からないですよね。だから、完了したところでどうだったのかという評価ができるようなものも用意しておくといいのかなと思います。そして最終的に全部できたらこのとおりだったかというような評価をするようになるといいのではないかと思います。今のままですと、できなかったのが16分に届きませんでしたという説明に全部がなくなっているもので、それはどうかと。次に検討していただければと思いますけれども。

それから、すごく細かいことなのですけれども、パーセントになっているところは、これはポイントなので、そこは全部直していただくほうがいいと思います。

あと、とても細かいところで申し訳ないのですけれども、私も今年加茂にけっこう通っていて、小須戸田上バイパスを通っているのですけれども、ちょうどこの調査をされていた11月12日とかというのは、道の駅が開業して、多分、私も次の週くらいに通っているのですけれども、すごく混んでいて入れなかったのです。だから、そういう効果も入っているので、その時点として2倍に増えましたということをおっしゃっていますけれども、多分、関係のない人が道の駅たがみにいらっしまったという効果も入っている可能性もあるので、非常に細かいところで申し訳ないのですけれども、そういうことも少し考えていただけないかと思いました。

(紅露会長)

交通量というのは、基本的には平均データで議論するのが筋ですよ。

(道路計画課)

順不同ですけれども、パーセントに関しては、確かにポイントです。大変失礼しました。

それから、交通量に関しては、確かに特異日でない日を選ぶというのが本来の原則であり、少し配慮が足りませんでしたので、次回以降、気をつけたいと思います。

(鷲見委員)

開通から時間がない中ですから仕方ないとは思いますが、またの機会に。

(道路計画課)

それから、指標の評価が全事業の合計になっているという点なのですけれども、見せ方、表し方を次回以降は検討したいと思っています。

(紅露課長)

道の駅たがみも、そのうち落ち着いてくると思います。

(小田委員)

今回のこの事後評価の対象になった道路事業というのは、評価表を見ますと24事業になるのでしょうか。それだけあって、当然その中で優先順位をつけて、どのように予算をつけて整備をしていくかというのが一番大事なところだと思うのですが、それ以前の問題として、この24路線を選ぶ前のプロセスと申しますか、選ぶためにはどのようなプロセスでこの路線が今回の整備計画の対象になったのかという、結局、次の計画でも同じだと思うのですが、その路線を選ぶプロセスというのはどういう形になっているのか教えていただきたいと思っています。

(道路計画課)

路線を選ぶプロセスというところなのですけれども、基本的に今回事後評価していただいた地域をおこす・つながる道づくりという計画が、主に快適性向上とか、そういったところを目的とした計画になっていますので、選ぶ事業としては、バイパス整備事業とか、もともと現道が1車線しかなくて、それを、2車線にするとか、2車線のものを4車線にするとか、そういったものを選んでこの計画に位置づけています。ほかの計画についても、それぞれの計画目標があって、それに合致する事業を位置づけて整備を進めているところです。

(小田委員)

そうなのでしょうけれども、結局、当然下からボトムアップされてきて、ある地域でこういうニーズがあるのですというものをヒアリングしていく中で、とりまとめて、要は審査会のようなものを開いて、そこを選んでいくというようなプロセスをとられていらっしゃるという理解でよろしいのでしょうか。



(道路計画課)

今ほど言ったところの前段に、おっしゃっていただいたように、各区役所などに地元から要望が来ますので、そういったものを、本課と区役所、それから実際に施工を進めていく部署などと意見交換を行ったうえで、どの事業をやっていきますかというところを決めたうえでこの計画に位置づけていくといったプロセスになっています。

(小田委員)

分かりました。

(菊野委員)

本事業の進捗率はどのくらいなのでしょう。この委員会では指標だけ見ればいいのでしょうかけれども、全体像が見えづらくて。先ほど、9分の5が用地取得できたとかできないとかという数字が出ていたのですけれども、全体像を聞かせていただけますか。

(道路計画課)

全体像というと、今、ぱっと申し上げづらいところがあるのですが、先ほど一部スライドで説明したものの再度のご説明という形になってしまうのですが、もともとの24事業がこの計画にある中で、事前評価というか、最初に計画を作ったときに、5年間で終わると想定していた事業として、9事業の開通を見込んでおまして、今現時点で終わっている事業というのは5事業、部分開通も含めてというところになるので、現状では半分と少しくらいの進捗率にとどまっているといったところになっています。

(菊野委員)

そうしますと、先ほどおっしゃっていた9事業のうち5事業終了で、4事業が完了できなかったという理解でいいですか。

(道路計画課)

4事業で効果が出ていないというところです。

(紅露会長)

指標の設定等は、ここで設定されているものと、次と共通するものとありますが、バイパスの整備など、基本的には移動時間の短縮ということは、観点としてはそれほどおかしなものではないのかなという気がしておりますし、住宅地内を通過する車を減らすというのは、交通安全対策の問題もあって、やはり重要な問題でもありますので、この点はあまり問題なさそうだと思いますけれども、やはり委員の皆さんからご指摘のあった点を改めて精査していただきまして、次の話に続けていただければと思っております。

なかなか用地交渉が絡みますので思うように進まないというのは我々も十分理解しております。円滑な事業の進捗のためには、やはり住民の皆さん、市民の皆さんの理解が必要と思

いますので、その理解を深めていただく意味でも、事業目的とその目的達成の評価指標というものを改めてご検討いただければと思っています。

次に7番目ですけれども、こちらは事前評価ということで、こちらは目標の妥当性とか、計画の効果及び効率性、計画の実現可能性についてご意見、ご質問があればご発言をお願いしたいと思います。

私、一つ聞きたいことがありますして、この事前評価のところの一つ目の指標なのでけれども、災害時の物資拠点から避難所までの所要時間を短縮するというところにどのような意味があるのかということをやはり聞いたほうがいいかなと思って、説明いただきたいと思っています。というのは、単純に考えると、例えば緊急輸送等の時間、例えば救急車とか、緊急で人を運ばなければいけないときに、交通規制をかけながらできるだけ早い時間で救急車とか消防の車両とかが行けるようにとか、重機の移動ということはあるのかなと思うのですが、物資の輸送というように、物資輸送拠点から避難所までと言われたときに、少し意地悪な言い方をすると、例えば早めに出ればいいのかなど。ここはどうして物資の輸送拠点から避難所までの所要時間というところに至ったのかななどを少し補足説明をいただければと思っています。

#### (道路計画課)

基本的には、今言われたとおり緊急車両ですとか、そういった非常時のときの交通の確保ということの一つ考えているわけですが、それから実際に災害があったときに、迅速に物資が届けられるようにという部分も想定しながらこの指標を設定しています。

#### (紅露会長)

そうすると、やはり実際に新潟市内が主な被災地になるような地震に見舞われたときに、早く物を運ばなければいけないというのは、かなりの時間続くという想定なのですか。というのは、すぐに対応しなければいけないときというのは、新型コロナウイルス感染症の影響におけるトイレトーパーと一緒に、すぐに対応がつかないので物が滞りはじめますけれども、状況によって最適化していくと、その辺の問題というのは改善されるのかなというところもあったり、これが瞬間の議論、要するに地震なのか分かりませんが、災害が起こってからある程度短期間のところでこの数字が達成できればいいという想定での所用時間の短縮なのか、その辺はどうなのでしょう。要するに、ロジスティックスの問題を平常的な条件で考えるのだったら、もうその条件でキャパシティを増やすとか投入する資源を増やすことでも、いくらでも運べる量は増やせると思っています。早く着くというよりも、物が限られた時間でたくさん着けばいいだけの話なのだと思うのです。だから、そこが緊急車両の移動時間とか、そういうことだったらなるほどと思うのですが、物を運ぶ時間を縮め

ることがどういうことなのかと疑問に思いました。だから、例えば物を運ぶトラックがそれほど簡単には来られないだとか、ドライバーの確保ができないだとか、そういう中で、限られた資源の中で、限られたキャパシティの中で物を運ばなければいけない、早く動かさない物が運べないということで理解してよろしいのか、その辺が少し気になりました。

(道路計画課)

災害時にはある程度の混雑も想定されますので、そういったことも踏まえて設定しております。また、もう一つの視点としましては、時間短縮効果を示す指標ですので、平常時においてもある程度移動時間が短縮できるという意味も含んで、平常時の快適性などといった部分の考え方も入っています。

(菊野委員)

今ほどの指標の1につきまして伺いたいのですが、危険箇所、災害が発生したときの浸水ですとか、土砂崩れ等が発生するような危険箇所も考慮してのデータでしょうか。どちらも交通情勢調査によると書いてありますけれども、そういった道路の安全性ということも考慮されて算出されているのか、教えていただけないでしょうか。

(道路計画課)

危険箇所というと、津波の浸水想定や洪水のときに浸ってしまう地区など、いろいろあると思うのですがけれども、そこをすべて挙げてしまうと、新潟市内では広い範囲が入ってきてしまうので、今回の指標については、そこまでは踏まえていません。一定のボーダーラインということで、ある程度幅員がある道路をまず対象にしましょうというところでボーダーを設けていまして、具体的には幅員が5.5メートル以上、すれ違いができる道路ということを前提に、シミュレーションをかけさせてもらっています。

(菊野委員)

物資拠点から避難所までのという指標となっておりますので、ここが、例えば津波が来て浸水エリアになってしまうとこのルートが使えないということになりますと、やはり指標としての設定に少し課題があるのかなという印象をもちましたので、今後、ぜひ検討していただきたいと思います。

(紅露会長)

菊野委員がご指摘のとおりで、基本、24時間とか36時間くらい経って、とりあえず応急復旧ができた段階で、片づけて車が通れる状態なのだと思って見ていたのですがけれども、細かな条件をいろいろ考えていくときりがないのも十分理解しています。ですので、どう考えるか。事業をされる皆さんがここを重点的に考えるというのであれば、やはりこれを考えなければならない理由というものが必要なのだらうと思うので、その辺、ぜひご検討いただけ

ればと思います。

(小田委員)

前計画で実施できなかった事業というのは、本計画ですべて網羅しているような形になっているのかどうかというのを確認させていただきたいのと、今回の指標を達成するためには、1番目の指標ですと、14事業が終われば達成しますということなのですからけれども、それは2番目の指標については、16事業が終われば一応33パーセント達成しますという形になっています。これは、16事業の中には14事業がすべて含まれていると考えてよろしいのでしょうか。そこだけ確認させていただければと思います。

(道路計画課)

今ほどの16事業のものに全部含まれております。

(小田委員)

それから、持ち越しているものは、今回の計画の中に全部持ち越しというか、前事業でできなかったもの、未整備だったものについては、すべて今事業の計画の中に網羅されているということよろしいのでしょうか。

(道路計画課)

基本的には、完了した事業以外は、すべて新しい計画に位置づけております。

(紅露会長)

災害に、日常使いの安全性に、いろいろ満たさなければいけないニーズや条件が多様なものが道路かなと思いますので、引き続きその辺りをご検討いただいて、効果的な投資が実現できるように、ぜひご配慮いただければと思っております。

それでは、続きまして8番目、緑豊かで魅力にあふれ、安全・安心な都市公園づくりは事後評価になります。それから、9番目、(仮称)緑豊かで魅力にあふれ、安全・安心な都市公園づくりは事前評価になります。関連事業でありますので、担当課より一括してのご説明をよろしく願いいたします。

(8) 緑豊かで魅力にあふれ、安全・安心な都市公園づくり【事後評価】

(9) (仮称) 緑豊かで魅力にあふれ、安全・安心な都市公園づくり【事前評価】

－公園水辺課より説明－

(紅露会長)

まず、(8) 事後評価につきまして、進捗状況、効果、今後の同種事業の進め方、その他について、ご質問、ご意見がありましたらご発言をよろしくお願ひいたします。

(鷺見委員)

定量効果以外の効果発現について、効果発現されているというポジティブな記述が見られるのですが、どこをどう見るとそのように見ればいいのかということが少し分かりません。CO<sub>2</sub>の排出は抑制したほうが良いと思わない人はいないですが、自分の行動はどうかというところとそういうわけではないわけです。お金をかけて木を植えていただくことに依存しようということであれば何の意味もないわけですし、アンケート調査などから公園の緑が増えていると感じている人が多いのでしょうか。

(公園水辺課)

アンケート調査を行ったところ、増えているとお話しされている方が約半分くらいはいるのですが、前回と比べると増えてはいますけれども、それでもまだ半分程度という中で、まだまだなのかなというところはあります。

実状として、木は現実的に増えていることは増えています、それが今回指標として、本当に微々たるものではありませんが、これでよしとは思いませんけれども、そういう形の対応はしているというところを話したかったというところです。

(鷺見委員)

42 億円かかっているのです。それで、このアンケート調査が正しいとして、よく管理されていると思っている人が4ポイントしか増えていないという状況は、これはいかななものかと思うのです。目標の設定の仕方もどうなのかなと思っていて、費用対効果を考えていただかなければいけないような気がします。見ている状況と担当部局の評価があまりリンクしていないという気がします。

一人当たりの公園面積を増やすことに何の意味があるのかが分からなくて、評価を上げていきたいと思っているときに、一人当たりのスペースみたいなものをもっと確保したいということであれば、こういうことは改善すればこういうアンケートなどが改善していくと思うのですが、こんなに緑が豊かで、どこを走っていても緑が見られるような世界で、一人当た

りの面積を指標にしているということが何なのかと思うのです。CO2吸収量もそんなにインパクトがあるのだろうかという気もするので、効果測定指標そのものが何とも言いえないところがあるということで、次回、改善していただきたいところです。

誰に対して公園整備していて、どのような人から評価をいただいているというターゲットをしっかりと絞ってしていただき、どういった効果が出てきているのかを次の指標に生かしていただきたいと思います。

#### (公園水辺課)

公園一人当たりの面積についてですが、こちらについては都市公園法、また新潟市の都市公園条例におきましても、一人当たり10平方メートルが望ましいという中で、そこに行くまではまだ我々もそういった指標は掲げていく必要があるのかなと思います。まちなかに使いやすい公園があるなしという部分があるでしょうが、数字的には、この辺がまだ法律にある以上は落とすわけにはいかないという考えがありました。

樹木につきましては、おっしゃるとおり本当に微々たるもので、指標に掲げるのはどうかというところはあったのですが、国の補助金のメニューがそのようなメニューとなっており、指標として前面に出さなければいけなかったというところもありました。

アンケートの取り方につきましては、確におっしゃるとおりそれぞれの立場で取れるような形で検討していきたいと考えております。

#### (紅露会長)

驚見委員からのご指摘については少し同感なところがあり、ご説明いただく方の立場と国の政策もあることは十分理解できますが、公園とは一体何なのだろうというのは、評価指標などを拝見し、緑があることが公園の目的なのだろうかと考えたうえで使われている実状を視察などで見ると、新潟市に住む人たちは公園に何を求めているのか、非常に示唆に富んだ利用実態だったような気がします。これだけのお金を使ってやるというアプローチの仕方が、ではどうあるべきなのかと。たくさんの人を集めるような大型施設を造るのがいいのか、徒歩や自転車で行けるようなところにもう少し分散させる形で整備するのがいいのかということも含めて、そこが市役所の施策なのだと思います。公園というものは一体何のために必要なのか。何のために公園があって、新潟に暮らす一人一人の人たちがどのような生活をしてどのように生きていくのかということと非常に深い関係があるような気がします。そうは言っても様々な条件に合致しないとうまくいかないということも、ある程度は理解しております。

最後のところにありましたが、安全な休息や遊び場を求めるというのは非常に率直なコメントだというのは、皆さんが大体認識しているようなところかなと思います。時代の変化と

ともに公園って一体何のためにあるのかなということ、より効果的な投資ですとか、より効果的な目標の達成度評価というものを、ぜひ、ご検討いただければと思っています。

9番目の事前評価について、成果指標の妥当性や計画実施の可能性等、ご質問、ご意見などをお願いします。

きらら西公園などは利用者も多く、こういったものを市民は求めていたのだなというのは実感としてもものすごくあるのです。こういうものが市内のいろいろなところでできたらいいなという、市民の潜在的な要望もあるのだと思います。そういう意味で、赤塚公園はもともとどういう場所だったのかということも含めて、環境教育とかそういった側面からも意義があると思いますので、この成功事例を少しずつ広げていただけるような目標設定、評価指標の設定を、ぜひ、ご検討いただきたいと思います。

(小田委員)

整備計画書の中で、公園を造るに当たってB/Cは2.3とか2.6とか出ていますが、公園を造ることによるメリットは何なのかなと。今の何のために公園を造るのかという部分にもつながってくると思うので、教えていただければと思います。

(公園水辺課)

公園におけるB/Cの求め方ですが、公園を利用することによる価値を評価することに加えて、環境的な面や防災的な面を間接利用価値とし、それを貨幣価値として評価することでベネフィットを算出しています。費用対効果分析手法マニュアルがあり、これに基づいて算出しています。

効果が多岐にわたるということですので、直接利用で行けばレクリエーション効果や健康増進といったものを価値に換算するということです。

(小田委員)

価値に換算するものにヒントがあって、成果目標として何かとらえるものがないのかなと。B/Cを計算するのであれば、そういったものの中から目標値を選んでいったらどうなのかと思います。

(椎谷委員)

新しくできた公園もそうですが、子育てしている親にしてみると、とても評価が高いのです。あそこができたことによって子どもが行ける場所が増えたとか、新潟市って子育てにやさしくないまちだったのにこんなにやさしくなったとか、様々な声が実際に聞こえてきていの中で、このアンケートの低さというものが、やはり、なぜなのだろうととても思います。

51パーセントの目標は、やはり低いのではないかと思います。アンケートの内容の取り方もあるのかもしれませんが、やはり、望まれているのです。高齢者の方にとってもそうだ

とは思いますが。評価の低さがなぜなのだろうということが疑問で仕方ないという感じがします。51 パーセントではなく、もっと上げてもいいのではないかと思います、難しいものなのでしょうか。

**(公園水辺課)**

公園の管理については、遊具など実際に我々が直接改修したりという管理をしますが、施設とは別に日々の維持管理、落ち葉拾いだったり草取りだったりといった管理もあります。管理において、新潟市については自治会等を頭にして公園愛護会の皆さんにお願いしてやってもらっているところですが、高齢化という状況もあり、うまく進んでいないというところもあります。他の政令指定都市でも愛護会の高齢化という状況がありますので、他の都市での運用なども勉強しながら、我々もできることを検討し、市民アンケートの率も上げていきたいと考えております。

**(紅露会長)**

皆さんのご意見にもありましたけれども、公園の評価については、皆さんがお考えになるものの後押しになるような評価設定や目標設定などがあるといいのかなと思います。特に、子どもが小さいと、固い地面ではなくて柔らかい地面がほしいのです。海に連れていくわけにもいきませんので、そういった意味では、小さい子どもが集まるというのは、当然かなというところもあるのです。新潟市の実状としてその整備が行き届いているかという、必ずしもそうでもないというところもあるので、ご検討いただければという意見も出ています。

**(菊野委員)**

事前評価の成果目標で、都市公園の整備率、整備というのは何をもちて整備完了と算出されるのか、教えていただけないでしょうか。

**(公園水辺課)**

この事業は、新たに公園を整備するというのではなくて、今ある公園をさらに使いやすいようにリニューアルするという事業です。その際には、地域の方々とも一緒に話し合いながら、高齢者用の施設を多く入れたほうがいいのか、小さい子ども用の施設を入れたほうがいいのか、お互いに研究し合いながら整備するという公園となっております。

**(菊野委員)**

成果目標の2と4はかなりハードルが高いのかなという印象を持ったのですが、100 パーセントできるだろうという考えのもとに目標にしたと理解してよろしいのでしょうか。

**(公園水辺課)**

こちらについて、1,148 施設ということで、今後5年間ありますので、その中で十分対応できると考えております。



**(紅露会長)**

ありがとうございました。

以上で、議事案件はすべて終了いたしました。貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。ぜひ、真摯に受け取っていただいて、ご検討いただければと思います。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

**(事務局)**

皆様、長時間にわたり、大変ありがとうございました。

本日いただきましたご意見につきましては、各事業の推進に反映させていただきたいと考えております。

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。大変ありがとうございました。